

# 若き学生たちの活躍

## Young Athletes of MOROYAMA

多くの鍛錬を積み、技術を磨き上げた毛呂山町の若きアスリートたち。この特集では、高い目標を掲げて挑んだ、それぞれの戦いに迫ります。



◀優勝を決め、笑顔でガッツポーズ！

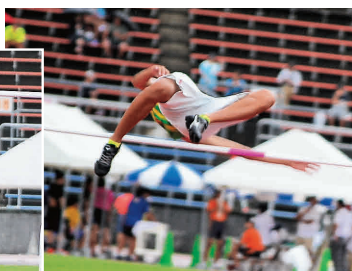
### 毛呂山中学校3年 全中陸上 走り高跳び 優勝

### 清水 怜修

中学生の走り高跳び日本一  
全日本中学校陸上競技選手権大会で、毛呂山中学校陸上部3年の清水怜修さんが、2位と9センチメートルの差をつけ、2メートルの記録で優勝しました。スポーツは全般的に得意と話す清水さんが、高跳びを始めたきっかけは、中学校の部活動の体験入部だったそうです。

頂を制し、次なる目標は

自身を本番に強いタイプと称する清水さん。高校進学後も競技を続け、「次の目標は高校1年でインターハイに入賞することです。」と、高い目標を見定め、跳躍します。



▶雷雨の影響で、競技は1時間以上も中断。濡れる足元の影響を感じさせない大跳躍。

### 植田 杏 あんな してんのうじ 四天王寺中学校3年(毛呂山小学校卒) 全中卓球 団体戦準優勝 個人戦ベスト32



写真提供：Rallys編集部



全国大会優勝を目指していたので、とても悔しかった  
令和4年度、パリ五輪選考会に出場し、U-15ナショナルチームにも選出された植田さん。大阪の強豪中学に進学し、学校のある日は5時間、ない日は11時間の練習を積んでいます。今年、全国中学校卓球大会への切符を賭けた近畿大会では、団体、個人戦ともに優勝。続く全国大会では、「試合直前で怪我をしてしまい、あまりいい状態で臨めなかった。3年生としてもチームに迷惑をかけてしまいました、とても悔しい結果となった。」と振り返りました。今後の目標は、「年明けにある天皇杯・皇后杯全日本卓球選手権や高校生になったらインターハイがあるので、そこでしっかり優勝できるように頑張ります。」と目標は変わらず、頂点を見続けていました。

◀昨年の全国大会での団体戦優勝の写真。前列一番左が植田さん。



写真提供：卓球レポート/バタフライ

かいと

# 松井 海斗

## 1位への憧れを胸に 練習を重ねた

小学校の持久走大会では2位になったことしかなく、1位に憧れる気持ちから、中学校で長距離を始めた松井さん。埼玉栄高校に進学すると、さらに実力の上回る先輩たちが集まっており、ここでも背中を追いかける環境に。今年、高校3年間の集大成となるインターハイでは日本人1位を目指して挑むも、結果は3位。

「予選の疲れが残り、自分の力不足を実感した」と話しました。今後は「大学の3大駅伝（出雲・全日本・箱根）に1年生でメンバー入りすることを目指し、大学4年間で区間賞（区間1位）を獲れる選手に成長したい」と次なる目標を定めて、今日も走り続けています。

## 埼玉栄高校3年(毛呂山中学校卒) インターハイ5000m 7位入賞

◀インターハイの表彰台。タイムは13分56秒81。日本人1位とは僅か1秒12差。



▶オレンジのユニフォームが松井さん。スロースターターで、序盤は集団の後方に位置どりをし、ライバル選手の位置を把握しながら、終盤に追いつきます。

## かのほ 西島 穂葉

## 毛呂山小学校6年 全国ホープス選抜 個人戦ベスト16

### 次の目標は 全日本でベスト8

姉がやっていた影響で卓球を始めた西島さんは、週に6日、平日は3時間、休日は5時間の練習を行い、全国ホープス選抜卓球大会でベスト16の記録を修めました。今年8月に開催された全日本カデット埼玉県予選では一歩及ばず準優勝でしたが、今年11月に開催される全日本ジュニアオリンピッククへの出場を2年連続で決めました。「前回大会では、角シードにあたり2回戦で敗退してしまったので今回はベスト8に入りたいです。」と自己記録超えに挑戦します。



休日には自分の課題に応じた練習（課題練習）をしており、今はラリーの練習、サーブから3球目などの練習をしているそうです。

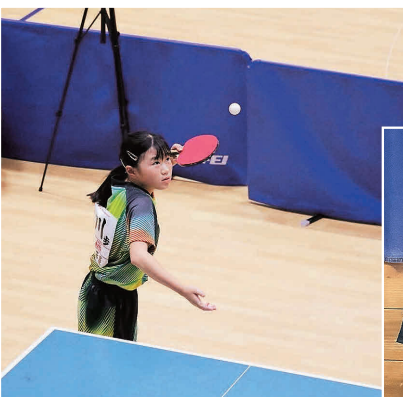


## 毛呂山小学校5年 全農杯全日本卓球選手権大会(ホープス) 出場

## あゆみ 市川 歩実

### 来年も全国の舞台を 目指して

5歳から卓球を始めた市川さんは、今年、個人・団体戦ともに全国大会へ出場しました。個人戦については「ベスト16を目標にしている、その目標には届かなかったのが悔しかったです。」、団体戦については「ダブルスとシングルスに出て、シングルスではあまり活躍できなかったけど、ダブルスでは、全て勝てて良かったです。」と今年を振り返りました。週に6日、平日は4時間、休日は5時間の練習をしている市川さんは、「来年も全国大会に出られるように、予選を勝ち抜いて、そこから結果を残せるように頑張ります。」と闘志を燃やしています。



上の記事で紹介した西島さんと、全国ホープス大会の団体戦にも出場し、ベスト16の大会成績も持っています。

# みやざき 宮崎 妃南子

## 星野高校3年(川角中学校卒) 全国高校放送コンテスト 出場

きつかけは下校放送と埼玉郷土かるた

星野高校放送部に所属する宮崎さんは、NHK杯全国高校放送コンテスト・アナウンス部門に2年連続で出場しました。放送部に入部したきっかけは、下校の町内放送を担当したことで、埼玉郷土かるたの読み手を担当したときに、人に物を伝えることの重要性和魅力を感じ、その術を学びたいと思ったからだそうです。大会結果については「このような賞を頂けたのは先生方を初めとしたたくさんの方のおかげです。」と述べ、今後については「自分を育ててくれた故郷である毛呂山町に恩返しができるような職につきたいです」と語ってくれました。



第70回 NHK杯 全国高校放送コンテスト

▶毎日昼休みには発声練習をし、放課後には全体練習、大会前は、個人練習を1時間追加するそうです。



## 川角小学校6年

### 世界に向かって泳げ ジュニアス JOC JUNIOR OI 全国JOCジュニアオリンピックク4×50m 出場

全国JOCジュニアオリンピックカップ水泳競技大会

2023年8月22日(火)~26日(土)



▲一番左が吉田さん。目標の26秒台には0.2秒届かず。ドルフィンキックの時間を長くし、浮き上がりを遅くできるようにすることが、今後の課題だそうです。

# 吉田 祐介

目標を一步ずつ 乗り越えてゆく

「泳げるようになってほしい」という両親の想いから習い始めたスイミング。コーチからの勧めで、選手育成コースへ移り、練習を重ねていくと着実にレベルが上がっていったそうです。ジュニアオリンピッククへの出場が決まった時の気持ちは「めちゃくちゃ嬉しかった」と声を弾ませました。大会での目標は、26秒台を出して、チームで決勝進出だったのですが、どちらも果たすことができず「実力が足りなかった。悔しい。」と思いつきました。本人の今後の目標を尋ねると、「今年ある全国大会に個人戦でも出場し、次は決勝に残りたい。」と、視線はまっすぐ前を向いていました。

# 有野 美羽

## はなさきとくはる 花咲徳栄高校3年(毛呂山中学校卒) 特別国民体育大会 出場

屋根裏のグローブ

屋根裏にあった母の古いグローブを見つけたことで興味を持ち、町内の女子ソフトボールチームに通い始めた有野さん。昨年は高校2年にして、エース・5番の活躍で、インターハイ出場を果たしました。今年は県大会決勝で惜敗し「打者としても登板なく負けてしまい、悔いが残った。」と語りました。

二刀流で日本一

今年の国体に選出され「もう一度、投手と打者の二刀流で日本一を目指そう」と、想いを新たに臨むそうです。高校卒業後は園田学園女子大学で、引き続き二刀流で日本一を目標にプレーします。



## 川角中学校1年

### 全国JOCジュニアオリンピックク自由形 出場

# 清水 仁

来年は、全国大会 決勝進出を狙って

中学1年で、176センチの恵まれた体格を持つ清水さんは、2人の姉に続いて年少からスイミングを始めました。途中、怪我などの影響で結果が伸びず、泳ぐのが嫌いになった時期もあったそうですが、小学5年から3年連続でジュニアオリンピッククへの出場を果たしています。今年の結果については「練習以上の結果が出たと満足しつつも、「来年は決勝に残りたい」と次なる目標を掲げています。今後は「中学3年で全中に出場し、決勝進出を狙う」とし、練習を続けていくそうです。



▶一緒に練習に励む仲間たち。右下の黒いキャップが清水さん。

▶強い選手であることを感じさせない、柔らかな雰囲気をもたらしています。学校では生徒会も務めています。



◀ペンホルダーのラケットを使用し、シェークの選手を翻弄

## 川角中学校3年 関東中学校卓球大会 出場

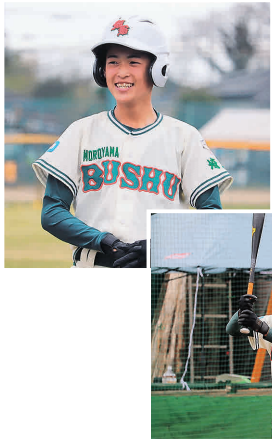
# な ゆ き 渡邊 菜雪

**部活動とクラブに通い、念願の舞台へ**

川角中学校女子卓球部3年の渡邊さんは、クラブチームにも所属し、関東中学校卓球大会への出場を目標に多くの鍛錬に励みました。見事に出場を果たし、1回戦を突破、2回戦ではデュースの末、惜しくも敗戦。「目標を果たすことができて晴れやかな気持ちになれると自分では思っていたが、2回戦で負けてしまい、自分でも意外なほど悔しさが込み上げてきた」「高校進学後も競技を続けていく」と意気込みを語りました。渡邊さんの挑戦は、今後も続きます。

## りょうすけ 齋藤 涼介

## 毛呂山中学校3年 リトルシニア関東連盟2023春季大会 出場



**雨の日は木の下で素振り**

兄2人の後を追いつ、自身も野球を始めた、末っ子の涼介さん。長男は花咲徳栄高校に進み、甲子園にも出場したそうです。そんな3兄弟を見てきた母から「熱心」と太鼓判を押される涼介さんの練習量は、休日朝7時から夜6時までチーム練習。平日は、素振りを体力の限界まで、雨の日も休まず、木の下で練習するそうです。そんな努力が実を結んで、2年連続で関東大会に出場でき、「うれしい気持ちもあるが、2年とも初戦敗退してしまって悔しい気持ちもある」と複雑な心境話してくれました。来年からは高校野球の道へ進み、兄の背中と白球を追いかけます。

## 毛呂山小学校5年 東日本ブロック卓球大会団体戦 出場

# 小山 かなえ



▲団体戦のメンバーとスリーショット。写真中央が小山さん。



**目標は全国大会に出場**

2人いる兄が卓球をやっていたことから、自身も卓球を始めた小山さん。週5日、1日2〜5時間もの練習をしています。その結果、「前は負けた相手にも今回はストロークで勝ててとても嬉しかった。」と努力の成果を着実に感じられているそうです。今後の目標は県大会でベスト8以上と全国大会への出場です。

## ドラゴンズ イーグルス オリオンズの合同チーム 毛呂山DEO 関東少年野球大会中央大会 準優勝



◀憧れの舞台に立った感動は、本人たちには分かりません。



**ピンチの場面も一致団結**

町内の3つの少年野球チームが合流して、大きなうねりとなって、素晴らしい結果が生まれました。途中、サヨナラ勝ちの僅差の試合もあり、「やばいと思ったが、なんとかみんなでも乗り越えることができた。」と練習で積み上げたチームワークを実感したようです。